

第 9 回 公共施設等マネジメント推進検討会

— 議事録（要旨） —

○日 時： 令和 7 年 1 月 14 日（火） 9 時 30 分～12 時 00 分

○場 所： 市役所本庁舎 6 階 604・605 会議室

○出席者： （委 員） 市 長 濱田 豪太
副 市 長 別 府 誠
教 育 長 三 木 守
企画財政課 近 藤 補 佐（代理出席）
防災対策課 岡 林 課 長
生涯学習課 山 崎 課 長
住宅政策課 浜 田 課 長
高齢者介護課 都 築 課 長
契約管財課 岩 田 課 長
夜 須 支 所 内 川 係 長（代理出席）
香我美支所 西内支所長
赤 岡 支 所 前川支所長
吉 川 支 所 松本支所長
地域支援課 弘 田 課 長
（事 務 局） 企画財政課 —
契約管財課 別 役 補 佐
契約管財課 北 村 係 長
（支 援 業 者） 株式会社 GPMO 神原、山内

○議 題： （1）「香南市公共施設等適正配置計画」（案）について__（資料 1）
（2）「施設カルテ」について
（3）今後のスケジュールについて
・ 学校等の規模適正化等の今後のスケジュール
・ 「香南市公共施設等適正配置計画」（案）の公表とパブリックコメントの実施について
・ 市民説明会の実施について__（資料 2）

○その他： （1）次回の協議事項について
・ パブリックコメントの結果を受けての「香南市公共施設等適正配置計画」（案）の修正について

(2) 次回開催日程について

日時：令和7年1月14日（火） 9時30分～12時00分

場所：本庁舎6階 604-605会議室

【資料】：（資料1）「香南市公共施設等適正配置計画」（案）について
（資料2）市民説明会の実施について

開会

事務局 開会宣言

濱田市長 市長挨拶

1. 議事

(1) 「香南市公共施設等適正配置計画」(案) について

事務局から「香南市公共施設等適正配置計画」(案) 第1章について説明を行いました。

委員 4・5・9ページに記載している面積を小数点以下か整数に揃えた方が良いのではない
か。

委員 合わせた方が良い。

事務局 四捨五入して整数に統一という考え方で進めます。

委員 10ページの財源不足合計は約24億円となっているが、12ページの図表と異なる。

委員 ここは差し替えます。今最新版に直っていないため、10ページの不足額と12ページ
の整合性をとったものに差し替える。中期財政計画の中にある、歳出の紫で書いてい
る更新改修費は表現しない。今後LCCで積み上げが出るので、どれだけの更新費用が
必要かそちらで見てもらうようにする。

事務局 修正した中期財政計画の表に改めて、10ページの24億という数字を修正します。

委員 人口ビジョンは新しい推計が出ていると思うが、使えないか。

事務局 仕上がりは3月末なら可能であるが、説明会の時には間に合いません。

委員 間に合わないと思うが、最新の人口動態のような資料は毎年差し替えが出来るか。

委員 人口減少は特段数字に影響が出てくることはないと思う。

委員 宅地開発される所などのいくつかパターンを出して、詳細なものを作っている。人口
増加や、高速道路が出来る関係で開発が増えるなど、詳細に全体の人口の動態を見る
ようにしている。今は国勢調査と社人研の中身で出しているが、さらに一手間加えた
ものが香南市独自の人口動態の集計になると思う。2月には間に合わないで、新年度
になって差し替えしても良いと思う。詳細を作る中で開発のところも結構入ってき
ている。単純な社人研や住基のベースをそのまま落とすのではなく、そういうのを加味
すると変わってくると思う。

委員 11ページ図の1.6.2の下、現行案の所は、H32はR2ではないか。

事務局 現行のものをそのまま転記しているので、書き換えます。

地区別の人口については、前回いらないのではという話もあったが、このまま掲載し
ても差し支えないでしょうか。地区別の延床面積の比較をしているわけではないので、
無くてもいい要素ではあるかもしれないが、一旦この内容で良いでしょうか。

委員長 掲載する。

事務局・支援業者から「香南市公共施設等適正配置計画」(案) 第2章について説明を行いました。

- 委員 36 ページ 3 行目のなぜ削減が見込まれるのか。どのページで読み読み取ることが出来るのか。見込まれる理由はどこを見たらわかるのか。
- 支援業者 LCC の計算結果で削減が見込まれた。LCC の計算結果については、「地元に移管する」や「必要な利用年限が来たら解体撤去」等の方針を棟ごとに決め、一棟一棟その方針に基づき計算した結果です。
- 方針は全部で 12 ぐらいあったと思うが、「同じ面積で更新を続ける」「長寿命化し、更新を続ける」「地元に移管する」等、このヒアリング結果を基に、ある程度事務局で判断し議論する余地は残っています。
- 委員 文章として、そこが分かるようにした方が良いと思う。
- 支援業者 承知しました。
- 委員 31 ページ計画 1 期目の取扱い方針から積み上げをしているということなのか。文章に入っていないと、どうして急にこうなったのかわからない。計画のパーセントは出ているので、その根拠となるものはしっかり文章で書いた方が良いと思う。
- 事務局 唐突に「縮減効果が見られました」と出ているので、35 ページに書くのが良いのではないかと思います。何に対して LCC 算定を行ったか、詳しく文章で書くようにします。
- 委員 35 ページのグラフはすごく見にくい。千円単位ではなく億単位にした方が見やすいのではないか。
- 支援業者 承知しました。
- 委員 縦軸と横軸の名称が費用・累計となっているが、上下の括弧で囲んでいる部分と名称が異なるので、累計は更新費用総額という名称にし、100 万円単位を億単位で合わせた方が見やすいのではないか。
- 支援業者 承知しました。
- 委員 前回との比較で 10 億円上がった。それは対策後の 29 億が 39 億にということだと思うが、現状の部分も上がったのか？現状は年平均 56 億だが、前回計画は何億だったのか？
- 事務局 29 億で、対策後はもっと低かったと思う。
- 委員 前回と比較した所はすごく大事なところだと思う。LCC で増えているので、前回の計画よりどれだけ増えたかを見える化するか、参考のところにに入れても良い。どちらかになると思う。
- 事務局 総合管理計画で出ているのが、対策しなかった場合 1,169 億の 29.2 億円、個別施設計画を考慮し、建物だけ対策した場合 986.9 億円の 24.7 億円で、今の総合管理計画に載っている総務省の試算。

- 委員 現状の年平均だと 29.2 億から 56 億に上がり、対策をしたら 24.7 億から 39 億上がった。そこを見えるような形にしないでいいのか聞きたい。
- 支援業者 資料編になると思うが、単価や方針の考え方もかなり変わり、計算方法が変わったことにより、かなりコストが上がっている。モデル的な建物 1 棟を新しいやり方と前回のやり方で比較し、簡単にわかるような説明資料を作って資料編に付けたいと思います。
- 委員 前回の推計と比較したというところはすごく大事なところだと思う。
- 事務局 総合管理計画の更新までに時間がある中、これは実行計画だが、かなり詳細でもっと厳しい数字が出ているということと、総合管理計画ではこうでしたという文言を明確に入れておいた方が良いでしょうか。
- 委員 去年市民説明会の時、概要版でこの表を使っている。今回比較するという話だったと思うのだが。
- 事務局 総合管理計画の算定と、今回の算定との差はこうですということは、丁寧に説明して書くようにします。
- 委員 こちらは 32 年、総合管理計画は 40 年での更新費用が出ているが、年数が違うのは、どのような説明の仕方をするのか？
- 委員 年平均であれば比べられる。
- 支援業者 LCC 見るとやはり上がるので、例えば屋根や外壁 5 年に 1 回ぐらい手を入れていて、10 年・15 年に 1 回大きく直すみたいな数字があるが、屋根や外壁であれば 15 年・20 年に 1 回大きな改修だけをし、中間の 5 年に 1 回の改修は実質的にやってないので除く等、合意が取れ、実態に合わせた LCC のサイクルに合わせたところ、年 4 億を超える額が年 2 億台になり、財政の方で拠出している額と大体維持管理費が合ってきたという自治体が 1 自治体だけあった。それは建築の専門家がいて、責任を持つからこの中間の更新を全部除きなさい、それから固定資産の他に影響するような改修は入れるが、他に影響しないような軽微な修繕については、日常的な経常経費で見るので全部外して欲しい等の調整をし、かなり削減したケースはあります。現在の数字は最大の工事費用が入っていると考え、今後どこまで精査できるか専門家の方の意見を聞き、総額が LCC でほぼ決まれば、今後ご相談の上専門の方と相談しご提案します。
- 委員 次の段階で施設カルテの事が出てくと思うが、台帳整理をした上で更新しながら、利用者数や維持管理等を見ていくものだと思うので、どこかの章に書いた方がいいのではないかと。施設カルテだけでは何のために使うのか、この計画からは読み取れないので、手法みたいなものがこの計画にあればいいのではないかと思います。
- 支援業者 年間の計画を立て運用管理し、保全サイクルの中で施設カルテの更新をかけ、その結果を基に見直すというサイクルを作り、そのサイクルの中で建て替え時期もしくは更新時期が来たものについては、全体を見直すといった二重のサイクルで運用していければと思っています。ご指摘の趣旨に合うよう、どういうふうに維持管理し、LCC 等に繋

がり、適正かどうかの判断をするという大きなサイクルの中で、カルテも含めて日々の運用と合わせて作り直したいと思います。

事務局 目標については、今回は第 1 期なので 12 年後について、現在取り組み進めているものを確実に進めて、数字等はこれから精査するが 12 年後にこれぐらい削減していくということと、これ以上の金額の支出は抑えるといったものを一定の目標とし、ここに記載していこうと思います。人口動態も見て、最終的に今の数字より落とさないといけないというところも記載できればと思っている。明確にどの大分類のものをここまで減らしますというのは、見直しの時に大きく書けるのかなと思っています。

委 員 残った数が何%なのか削減が何%なのかはどちらを書くのか。

事務局 何%削減したという数字を書く方がわかりやすいではないかと思うが、両方作って見やすい方を掲示するようにします。

委 員 現場での話になるが、市民の皆さんはこの説明資料が難しすぎてわからないと言う。財政状況がこんなに悪いのに施設を継続できるのか、5 年間の間で町が潰れてしまうのではないかと、大幅な改善をしないと存続できないのではと不安に思っている。全部財政に伴っている資料と思ってしまうので、そこの乖離があまりにもありすぎると私達も説明しにくい。概要版を見ても難しいと言われるので、本当に響くのは財政の資料である。財政がこんなに逼迫している状況下で、5 年後の未来が語れないような状況になっているなら、公共施設は全部潰さないといけないのではないかという極端な話が出る。そうさせないように、今いろんな行革を進めながらという話もするし、数字的に目標値を言っても、感覚的な話しかできない。LCC の問題もそうだが、香南市の基準としての LCC の考え方が明確にない限りは出せない。直近の 5 年間をすごく心配しているので直近の話しかしない。12 年後はもう町がないと言われたり、リアルな話をされたりするので、厳しい数字を出しても目標値としてはいいではないかと思う。市民の皆さんと話しながら決めますということでも構わないが、早急にしないと、町が存続不可能になってくるという話でもいいと思う。私の感覚ですけど、ちょっときつい言葉を入れたとしても、大体分かってきていていると思っているので、目標値もある程度高めの数字を掲げても構わないと思う。

もう一点公共施設 ABCD ランク二軸評価の説明もしている。学校の施設や処理場、排水機場等は無理だが、現実味のある改修する施設はどれだとなったときには、368 施設の中ではそんなに数がないとなったら、今日の前の必要なものは全部残して、あとのものは半分ぐらいに減らすみたいな話も出てくる。検討材料として必要な施設はここ明確に出し、検討していくことがもっと大事である。これから見ていただく資料としては、もう少し抽出したものを作っていった方がいいと思う。

支援業者 今までの経験から文章を考えるが、やはり絶対残さないといけない施設とそうでもない施設を分けて、そうでもない施設については可能な限り除却していく。ただそれも解体できるかどうかもあるので、悩ましい。以前から財政も方から難しいと言われている

が、財政的に一般会計から繰り入れるのはどこまで可能か、あと市民 1 人当たりの起債の残高をどのぐらいまで抑えとるか、学校や庁舎、その施設類型ごとに一般的な補助金を国に問い合わせ、補助を運用に充てる財源がはっきりしていて、それで賄えるのはこれだけの施設ですみたいな話になると、わかりやすく作らないといけませんが、費用はこれだけいる、その財源はこうなっているということが分かれば、市民の方も少し安心すると思う。国の補助等を調べてみようと思います。

委員 彦根市が行った財政説明会では令和 16 年までの財政見通しを全部入れている。建設投資的経費が何十億以上を超すと存続が難しいとか、財政サイドの数字の指標があって、このマネジメントを入れてきた時に、どこまでに当てはまるか、もう少し財政とリンクした内容があった方がいいのではないか。

支援業者 LCC もフルスペックでやったら理想的だが、香南市では安全に施設が運用できるということを最優先して、絞り込めれば良いと考えます。

委員 資料のどこを見たらいいかポイントを絞って市民説明会を行う。施設の数またそこにかかる費用を説明し、理解を得られるようなものにしていきたい。施設は残すもの、残さないものを明確にした方がいいということだが、そこはこのマネジメントにおいて合意形成を図りながら進める。やはり市民の皆さんに協力してもらえる体制をつくっていくことがマネジメントでは大事だと考えているので、やるべき事をやりながら出来ることを着実に実行していくというふうに持っていきたいと考える。2.3%は第 1 期の計画を最大やったものなのか。今協議中や協議開始等、その文言も加味しての 2.3%なのか。基本方針に基づいた 2.3%なのか、現状を踏まえた 2.3%なのか。

支援業者 この方針で実施することが確定である、すなわち地元移管という方針が上がっているのであれば、地元移管できるであろうものしか入れていないので、すこし保守的に見ている。ここまで出来るのではないかと可能性で入れられたら、少しパーセントは上がってくるので、またご相談していきたい。

委員 その 2.3%と LCC の最大でやったところが、出来たら合致している方が良いと思います。次のページの LCC の 530 億の削減については、ここが最大だと思うが、整合性が取れてないのであれば、最大の目標としてやったのであればの方がいいのではないかと思う。まだ整っていないものが入っていません。最大やればもう少し数字が上がってくるのではと思うが、ご意見いただきたい。

委員 計画は高めに設定しておいても良いと思う。

事務局 各担当課からの取り扱い方針の修正も踏まえ、もう 1 回最大で計算し、それを目標としては今後やっていくという内容で書いていきます。

委員長 現場で市民の皆さんと話をする上で、財政的なことは話しにくいと思うが、財政をもっと前面に出していくべきか、それをやるとそもそも扉が閉まってしまうのか。

委員 今まではこうだったけれど今後こうなる、財政はきつくなるので、そういうところは見直すとした方がいいのではという思いがある。

- 委員 財政状況と公共施設マネジメントと一緒に説明されるのであれば、財政状況に不安になる市民も多いと思う。
- 委員 やっぱ財政的なところから始まっているので、前面には出していないといけないと思う。
- 委員 夜須は去年末で全区間回った中で、集会所はいらないというところはない。ただ、人口も減ってきた、老人ばかりになった、地元で管理と言われたら無理、市の財政状況がそんなに悪いなら仕方ないというところもある。夜須での説明会で、財政だけで必要としているものを強権的に潰すつもりはないという説明の仕方をした。財政が悪くなった理由の提示はした方がいいと思うが、納得してもらえる説明が今後必要だと思う。
- 委員 どの地域に行っても同じ説明をしているが、概要版の中で公共施設の適正配置を説明するにあたり、まず言わないといけないのが、今の財政状況も踏まえてということで、人口ビジョンである。人口が減っている状況に至っていることについては、未来の予想の数字はほぼ決まっている。それと公共施設の数自体も現実の数字はたくさんある。全国的にアベレージを取ったら、アベレージに対して良いも悪いも言いわない。多いか少ないかの判断はここでできますという話をする。それと過去5年間赤字になっている財政状況の話。歳入歳出であつたら、赤字はこういうふうに出てくるという状況を報告する。ざっくり全体の話をする中で二軸評価の話に入っていく。例えば法定耐用年数より10年プラスした、耐用年数の説明をする。公共施設でも、どうしても壊せない施設たくさんありますという全体的な話をまずする。その中で今回は集会所といこいの家ですが、他の施設と違いコミュニティの場所、地域が集まる場所ですので、すぐに壊すという判断はありませんと説明する。ただし、人口状態等を見た場合に、地域の方々と協議をしながら答えを見出したいと話をしながら説明する。
- 第1弾として、地域で預かってもらえるのかという話に仕向けていく。でも地域によっては、将来的に見たら人口が減っていくので、私らに持たされたとしても最終的には市に管理してもらいたいという話が出てくる。市に管理してもらうときになったら壊す話になるが、その方向でどうかという話にする。毎年状況が変わるので、状況を聞きながら判断をさせてほしいということで、5年間ぐらいのゴールを決めるという話をしながら地域を回っている。コミュニティの場所ですから、本当は地域支援課と一緒にどういうふうに集まるか事業計画の提案をしていかないといけないという話をしながら、今の自治体の使っている状況を聞きながら、話を進めている。
- その中で防災対策の話がよく出てくる。位置づけとして避難場所になっているのに、それを壊すのかという話になる。それについては時間かけないといけない。ただし、5年後10年後には人がいない中で、その施設として活用できるかという話などいろんな話が出る。集会所についてはまず壊すという判断は現状していない。ただ地域によっては、防災コミュニティセンターが近く、今なくなってもあんまり影響がないところ

もいくつかあるが、だからといってすぐ壊すという話ではなく、もう 1 回地域と話をしますとさせてもらった上で、地域の皆さん全体の総意は取れないとしても、皆さんの中で取り壊しても良いという判断があれば、その話も含めて進めていくという話にさせてもらっている。夜須についても、全地域が残してもらいたいと本音を語ってくれている。今回の中でも地域に移管ができそうなところ等は、ニュアンスを変えて答えを出していますが、これを 1 年 2 年かけて、もう少しと詳しく回っていくと、その数字は上がってくると思う。人口が減ってきているのは事実なので、少しずつ率を上げていく。目標の数値はもう少し高めでもいいと思ったのは、そういうところにある。

あとスポーツ施設と文化施設については大幅な削減をしていくと言わせてもらっている。政策的に動かないといけないところもあると思っているので、お願いしたいと思っている。

委員 財政状況は前面に出してもらいたい。いくら公共施設のマネジメントを作っても、財政に行った時にはそんなお金はないと言われるのが現実である。しかし、今ここで見せるのが中期財政計画でしか現実的なお金を表せないというところも理解してほしい。中期財政計画でしか数字を出せないと言われているので、それが今期の財政計画だと思っているので、それをどういうふうに見せていくかだと思いますし、この計画の中に財政状況を示せるものを掲載するのか、LCC もこれくらいの費用がかかって、削減になりますというところだけで、LCC を走らせたときに、現状の財政状況からいうとどのくらい足らなくなるのかということが総合管理計画には書かれているが、今回の計画には書かれていない。現状の財政状況でいくとどうなるのかという数字を載せていくと、5 年先・10 年先との比較も出来てより現実味が出来てくると思ったのだが、ここには削減効果だけで今の財政状況からの足らなくなる数字が書かれていない。

支援業者 財源まで明らかにするのはやはり難しい。私が今まで取り組んだ所でも、財源内訳まで出したところは 1 割か 2 割ぐらい。全国の事例を見ると、一般会計からの繰り入れと起債を当てて、市民 1 人当たりの起債残高がどう推移するか。それから過去の資料から補助金として、どのぐらい見込めるかみたいな形で財源構成で決めているところもあります。

委員 財源構成は一般財源がどれくらい必要かというところだと思うが、来年にも補助金があるのか見通しがたたないと思う。そうなってくると現状での試算ができる。LCC にしても現時点での試算である。あくまで試算なので出しても良いのではないか。中期は止めているかもしれないが、今の交付金や補助金があるような感じでいけば比較は難しいのか。

支援業者 例えば過去 10 年間の同様の支出に使われた費用の平均ぐらいが、将来順当可能と言われているが、建て替えが集中している時期の平均をとったら、結構財源がある。

ただ建て替えがなく建設改良費をほとんど使っていない年もあるので、過去のものをもってきて未来はこれでいけますというのもすごく乱暴な話になるし、少し難しいところだと思います。

委員 思い切った判断の方がいいということか。

支援業者 建設改良費をどれだけ絞り込めるか、一番はどれだけ施設の数減らせるか。これは地元の住民の方の抵抗が一番大きいところではあると思うが、ただやはりかなりの数を減らさないと、充当可能な財源でこれから運用できるという自治体はあまり見たことはありません。

委員 中期財政計画を踏まえた上で、財政の方で平準化を図り、赤字を減らしていくみたいな書き方はできると思う。平準化を図るベースにはなると思う。

委員 何を信用してみたいかといったら個別カルテの中で出てくる年間のランニングコストや、その中で各課が計画立てて3年後に建て替えや壊しますという情報がすごく大事だと思っている。LCCはトータルでみた押し並べたという数字だが、中期も5年間という先を見ながらやっているの、来年度以降の検討対応の中にある、5年スパンでの建物がどうあるべきか明確に年度、年度で出てくるはずであり、そこでの積み上げが中期に反映されていくというイメージをもっているの、個々の建物がどのような計画で進んでいくかと財政としては見たい。それと財政が厳しいという話をする時に、6年度以降も人勤の上がりというのは必ず出てくるので、そういうところが厳しくなっている要因ではある。その部分を説明する時に、本当はこのマネジメントだけでなく、行革の話も今年から動きだして、7年度になったら間違いなくそういうところも、文章の見直しや、各課の仕事内容の効率化を図る必要がある。どうやったら減らせるのかという具体案で。このマネジメントは手段のうちの一つなので、財政が厳しいというとなると、全体を踏まえて言う必要がある。

委員 自分が説明するときに財政の状況の中で、将来的にこんなにお金がかかる。建設投資にかかりますということは加味していませんと言っている。そもそも中期に入っていないのでこれを加味したら、もっと赤字になるという話。人件費というところまでは個別に説明していないけれども、これを加味すると公共施設を維持しておけばおくほど、投資的経費のランニングコスト、改修経費が重なるので、なお厳しくなってきましたという話はさせてもらっている。やっぱり財政状況が悪い中で、公共施設の話だけしていくと、担当課としては残したい気持ちがあっても、なかなか中途半端にどの位置で話をするかというのは難しい。今後行革の中で、財政状況も踏まえて全体の市民説明会をして、個別の説明会でこれをしていきますという話になっていくなら進みやすいかも知れない。トータル的に見たら建設事業費を財政サイドで20億だったら20億と決めて、計画的にやっていかないと何かあったからどんどん上がっていくような数字じゃなく、計画をきちんと持っていた方がいいと思う。その中でLCCを活用したら良いと思う。建てたら20年・30年経ったらこういう方向に進んでいくというもの

が、香南市の基準で出来たら、担当課が作るのではなく、建物が建った瞬間に 5 年後にこうなるという長期計画できる。だから担当が抜かしていたとしても、全部のデータの指標が作り上げていくので、財政サイドでわかっていたら、未来予想が作れるかなと思う。ただ LCC の作り方については協議が必要だと思います。中期じゃなくて長期ビジョンをちゃんと香南市が持っておかないと、この話は答えが出ないと思う。

委 員 12 ページ収支見通しの投資的経費はどこか入るのか。

事務局 最新版に差し替えます。

委 員 インフラは入っているのか。去年出したが、その整合性が綺麗に取れなかったり、調べたら違うやつも入ったりするので、財政の中で全部入れるのは厳しい。どちらかというと、個別計画のそれぞれの建物のランニングコストも出ているのでは。その数字がそこに入るのは別に構わない。年間でこれはいりますという金額は出ているので。それを調べて別で事務諸費に入れるとか。

委 員 財政がまとめなくてどこがまとめるのか。

委 員 個別計画からひろったらすごく大きな金額になる。

委 員 中期で出さないと決めたのは、他にも屋外施設もありますし、建物だけで引っ張るのは難しいので、これなら除けた方がましだということになった。中期のデータとしては入れない。

委 員 投資的経費には公共建築物も屋外施設もインフラも含めた投資的経費で一般会計。

委 員 建物だけを引っ張りたかったら、個別計画にある建物のランニングコストを足したら出てくると思う。

委 員 それは毎年の決算の資料で引っ張れるのでは。

委 員 建てた・増築した建物は引っ張れる。ランニングコストが出る。

委 員 これはランニングコストじゃないのでは。

支援業者 固定資産台帳の減価償却の対象になるものを投資的経費としています。

委 員 建物だけじゃない、電気代等を含めて入れていたので、なかなか難しいという話になった。

委 員 会計事務所と話は出来ているのか。

委 員 それだったら建物しか上がってこない。

委 員 これは建物である。公共建築物にかかる投資的経費を見ていきたいのであれば、ここしかないと思うのだが。

委 員 施設カルテは実績で、これは見通しなので、収益しているのをまとめるのが早いのではないか。

委 員 中期で出た内容が、ここにも反映されたらいいと思う。

委 員 反映してくるようにするのは、後で説明させてもらおうと思う。

支援業者 今議論しているのは、投資的経費の光熱水費等は日常的なコストの縮減ということで、出来るだけ節約しましょうみたいな形で、ここは絞る。建設改良費は建物の数を減

らしめようみたいな感じで、委託料や使用料、賃貸料等は、施設を減らす・増やすの議論とは別のところで、どうすると縮減が出来るかという議論がもう一つ走らないといけないと思う。

委員 市民説明会のときには、財政課にも同席をお願いしている。お金のことを言われたら、財政課に説明してもらう事は可能か。

委員長 今まで市民の皆さんの要求に答えて、保育所、児童クラブ、給食センター等やってきたことが人件費が高い理由。それをやり続けてこうなったのだが、そのことを我々の公民館、集会所、老人いこいの家を壊すのかと言われたときにどう説明するのか、なかなか厳しい。でも過去話。来年度から財政改革をしっかりとやって、ちゃんと絞っていきますと、まとめていくしかない。財産財政のことだけではなく、人がいなくなったら管理すらできなくなるというその両輪を上手に説明していくための良い資料を作っている段階。他の自治体も似たような状況でやっている。

委員 合併しているというところは大きい。

委員長 それぞれ五つの町のいいところ全部取りでそのままやってきたが、たち行かなくなったということ。

支援業者 難しいですが、財政側から絶対これだけの予算置いておく、その残った部分で全ての総収入から更新に振り分け無くなったら、これはこれだけ減らさなかったら絶対もたないと言った方が早いのだが、そこが悩ましい。それと投資的経費ですから、固定資産台帳に登録されることになって減価償却が始まるわけだが、それと光熱水費ように日常的なコスト縮減で対応できるものというのをどっかで走らさなかったら、日常的な経常経費と、投資的経費を全て年間の費用として扱っていると、膨らんでくるので少し工夫がいると思います。

委員長 今すぐどんな形がいいか当然わからない。

事務局 例えば過去5年間の決算の説明をするという話があるとすれば、決算の資料はこの中に入れて、これだけかかり現実はこちら、将来は中期があるのでこうです。この中で過去使ってきたお金がこれで今後これがかかるという中身は精査できないが、その数字より確実にこのLCCが大きくなっていると思うので、現実としてもう使えない、だから厳しいという言い方は、多分詳細じゃなくても言えるような気もするが、それをもって財政の逼迫度合いを示すということはできるかもしれない。決算書を出してそれを中期のようにまとめたものと、インフラももちろん含まれるが、その内数としてこれだけ見込みとして…。というような言い方は出来るかもしれないので、そこも見比べるようにする。最大限の効果と最大の数字をあげて、財政の逼迫度合いを全体的に出すような方法で考えてみたいと思います。

委員 憩いの家は、生涯学習課と一緒に夜須を中心に回っている。地域の憩いの場、活動の場ですので、そこを無くすという話しはまず無くて、地元で聞いたら使っていきたい。

委員 利用率はコロナの関係で減っている。その前までは定期的に使われているという話はあった。ただ感覚的に無くされるということは、当たり前のように嫌がるので、時間をかけて説明するしかない。町の状況も踏まえて時間をかけていくと、もうしょうがないというふうにはなると思うのだが、やはり地域コミュニティが集まる場所なので、私たちからはやっぱり言えない。ですからお年寄りが集まる場所、地域の人が集まる場所にしていきたいと思いますということをこちらでも話しかけていって、どんどん活用してもらう方法をとっていく。山間地域は特にだが、どうしても人口が減っているの、ここまですぐ互いでやってきたけれど、難しくなってきたという話をしていると思う。お年寄りが集まる場所が無くなっていくのが、地域の代表者の方々は懸念している。集会所やいこいの家は地域には必要なものなので、今こういう状況になっていると思う。

ただスポーツ施設や公民館等は数が多いものがあるので、そこらはある程度まとめても良いではないか。

事務局から「香南市公共施設等適正配置計画」（案）の施設ごとの基本的な考え方について説明を行いました。

事務局 計画案につきましては、事務局の方で早急に体裁を整え、ご指摘の部分を修正した上で、再度回覧したいと思います。

（２） 「施設カルテ」について

事務局から施設カルテについて説明を行いました。

質疑応答なし

（３） 今後のスケジュールについて

事務局から以下について説明を行いました。

- ◆学校等の規模適正化等の今後のスケジュールについて
- ◆「香南市公共施設等適正配置計画」（案）の公表とパブリックコメントの実施について
- ◆市民説明会の実施について（資料２）

委員 確認ですが、市民向けの計画案の説明をして、施設ごとに入ってきますということか。

事務局 施設ごとに入っていくというのは夜須とかはやっている。赤岡はまだ出来ていないので、順番がかぶるところもあると思います。

委員 全体的に説明して計画書はこうですよ、施設については順次地元に入っていくという流れになっているのか。

事務局 夜須などではこういう資料を持って、夜須はこういうのが該当しますという赤岡の分も示して、同じように計画案とこういうのがあるので、この施設について赤岡も入っていきますという説明をする。市民説明会のときには各支所にもお手伝いいただくようになる。

(4) その他

事務局から以下について説明を行いました。

◆パブリックコメントの結果を受けての「香南市公共施設等適正配置計画」(案)の修正について

◆令和7年度からのスケジュールについて

委員 使用料や手数料の改正、減免の見直し等はここには全然入っていないが。

事務局 載せていかないといけません。

委員 4年間に1回のスパンがいいのかということだが、例えば総合管理計画の更新が令和13年になっているが、中間評価的なものをやるのか、この管理計画の中でのなると、同じようにしてもいいではと思う。更新の内容にもよるが、対象施設の更新をイメージしていくとは思う。

事務局 ここには12年間が出ているので、ここの取り扱いが変わってくるのと、大分類ごとの書きぶりが変わってくるのではないかと思います。上の表に関しては、進捗があれば毎年変わってくると思う。LCCも毎年大規模な工事があったらその部分はもちろん変わるが、イレギュラーなものかがあって、実際に行われたらその数字を入れていく方法もあると思います。

支援業者 毎年継続的に各施設を棟単位に全部見ている。1000 いくらの棟単位に毎年一定の方針でコスト縮減するための関係各課でアクションを起こし、それで方針が変わったらLCCを毎年計算するような形でカルテを合わせて毎年更新するのがいいと思います。それと総合管理計画と個別施設計画は、できるだけ簡素化し概要版のような形で総合管理計画をまとめます。個別施設計画も国が要求している最低限度のもので、このマネジメント計画の中に材料があるので、このマネジメント計画を編集して、個別施設計画、総合管理計画は提出できるところまで準備しておけば、3年に1回や4年に1回にこだわらなくて、データは毎年更新していきます。県や国から要請があったら、香南市としてできるだけお金を使わずに、速やかに総合管理計画と個別施設計画が簡単にできるような形を作っておくべきだと思います。

事務局 LCCの計算を全部の施設やっているが、個別計画ごとに、いつのタイミングで壊す・建てるというのを決めた段階で入れるとそこでまた走り直して、その数字が見えるというようなシステムを作ってくれるという話ですか。

- 支援業者 データの作り方にはルールがあるので、もう少し事務局と詰めて、こういう方針で行くといったらいつ除却する等、いつまでにどうするかをきっちりと定義をし直さないといけないと思うのですが、例えば今回No.2の更新でいっていたけど、No.3に変えるなど、方針番号変えたら、そこからLCCが香南市独自に作成できるようなものを作ります。
- 事務局 資料の財政の中期の表などは関連がわかりづらい部分があるので、どういう資料かという注釈はできるだけ丁寧にしたいと思います。補足で書いた方がいいのかもしれない。修正して早急にまた確認していただけるように作業を進めます。

(5)	次回開催日程について
------------	-------------------

日時：令和7年3月18日（火） 9時30分～12時00分

場所：本庁舎6階 604・605会議室（次第にて）

以上